

まめ知識

「旦那(だんな)」

「配偶者の呼び方って何が正しいの？」と悩む人は少なくありません。例えば男性を呼ぶときだけでも、夫、旦那、主人、パパなどさまざまあります。近年は、目上の人の前では主人や夫と呼び、同級生やママ友の前では「旦那」と呼ぶ人が多いそうです。実は、この「旦那」という言葉、元々はサンスクリット語「ダーナ」の発音を漢字に当てはめた言葉。仏教で大切にしている行いで、見返りを求めずに他者へ施しを与える「布施」を意味しています。日本では、施しや恩恵を与える人を「檀那(だんな)」と呼ぶようになり、寺院に布施等を行う家を指す「檀家(だんか)」もこの言葉から生じたとされます。時代と共に仏教以外でも使われるようになり、配偶者や子どものために働き、給料で家庭を支える男性を「旦那」と呼ぶようになったのです。

私たちは、家族や友人をはじめ多くの人々に支えられ、また支えながら生きています。「旦那」の本来の意味を思い返し、自分もまた、誰かに手を差し伸べられる存在でありたいものです。



佐賀教区宗務親教～日下部台下が鹿島に～



台風強い庫裡に！広縁サッシ工事



源昌寺の懸念事項の一つでもある台風対策。庫裡の東側、正面玄関と檀徒用玄関をつなぐ広縁は東側を向いているため、台風が来ると強い風が当たり、いつガラスが割れてしまうか。ヒヤヒヤしていました。総代会に諮り、本堂の火災保険が満期を迎え、共済掛金が返金されるタイミングで丈夫なサッシに変えることが出来ました。これで台風の時期も安心することが出来ます。



お寺は和風建築で建てられているためにどうしても段差や階段が多いのも申し訳ないと思っています。寺院運営をしていくために頂いている「お布施」の一部で段差を上り下りし易いような手すりやちょっと腰かけてお話をしたり、階段を下りた際にくつろいでいただけるようなソファなどを整備しました。限られた財源の中ではありますが、檀信徒の皆様が寺院内で快適に過ごしていただけるように今後も整備していきたいと思っています。

令和7年11月1日(土) 10時より七浦の福泉寺にて宗務親教が開催されました。宗務親教というのは、大本山や本山の御前様(住職)に地方のお寺へお越し頂き布教をして頂くことを指します。この日は、二祖聖光上人によって開山された大本山善導寺の御法王 日下部匡信台下にお越し頂き、お話を頂きました。私たちはお念仏によって救われていくことを約束されている。法然上人がお説きになったお念仏の実践と功德は計り知れないものである。お念仏を信じ申して歩んでいく姿勢の中で信仰という種が育ちやがて大きくなって私たちを支えて頂く。信じて申すことがとても大事なことで、私たちの命は儚いから日々の生活に感謝をし、感謝のお念仏によって私たちの心はまだ、育てられていくのだということをお話頂きました。源昌寺からは、有森総代会長、総代の池田光良さんにご参加いただきました。



仏教では、蓮の花を大事にいたします。お寺へお参りされますと、ご本尊様が蓮の花の上にお立ちになつていたり、お座りになつていたり、内陣に蓮の常華が飾られているのを目にされたことがあろうかと思えます。では何故、仏教では蓮を大事にするのでしょうか？ご承知の様に、蓮というのは、泥の中から出て、濁った水の中に育ちながらも決して汚されることなく、水面に綺麗な花を咲かせます。その姿がとても尊いという事で、仏教では蓮の花を大事にするのです。私たちお念仏を申す者はこの蓮の花のごとく、決して汚されることなく、心を育て、豊かな心をもって人に接することができるようにしたいですね。

もし念佛せん者は、まさしく知るべし。
この人は、これ人中の分陀利華なり。

もし念佛せん者は、まさしく知るべし。

